

7/4

革新

1969 7.4

全国革新クルーム会議
市大支部機関紙

改革案提示から全学集会による協議会の闘争圧殺を撃退し、

7、8月を叩き抜け！—— 7.10 闘争収拾策動物研全市大統一行動に起て！

医教授会の狂気の弾圧、林動隊導入の陰謀を粉碎し、

無能力エゴイスト集団＝医教授会を学園から葬り去れ！

④ 授業 再開強行への序曲、団交拒否
教授会の学外逃亡、寺子屋強化へ改
革案提示→全学集会《をスルト体制
相策、封鎖拡大、闘争主体の強化振
大々をもちつて反撃せよ！

6月28日大学協議会は、(1)改革案を行(2)夏休みをとりやめ授業の再開
を行(3)といった内容の(4)の6.27日解を告示した。この告示のもつ意
味は何よりも、2.20告示以後の一連の告示、斗争圧殺のための対応をふ
まえ、収拾策動の最終局面への突入を予告するものである。即ち、この告
示に陰儀をいさしている重大な内容は、一孔まで一貫して収拾策動を展開し
教授会の思ひてきた行動(口と協自主理制路線、自から担ってきた学園と
その体系の知的退廃をも)を全く無視した形で「改革案」なるものを提
示することであり、更にその改革案なるものは全学集会から、林動隊導入
への明確な布石である事を認識する必要がある。大学当局はこのよりな
改革案にさきかけて、この向、その準備段階として、全学的な団交の拒否
(家斗、法斗等)、更には、学内での重要な教授会、そして、改革案
をネトライキ派の中に侵透させ、そのことによる反動的多数派工作としよ
うとする寺小屋授業の再編成や強力に押しすすめてきた。六月以降のしほ
ートによる試験、の新たな改革案の提示に因して、学内でもこそ教授会
を行、斗争などの団交を拒否して一方的に行ってきたこと、更には、団
交拒否を陰儀し、右ヨク学生の結集の場として、学生と話し合う必要が
あるという理由の下に再山屋を行った。——これが大学当局のこの間の「
方針」なのであった。

更に、全和成員の斗いとして発展してきている医共斗と中軸とする医
学部斗争に恐怖し、自らの保身のサア狂気の如く追求する医教授会は、
厚生学院斗争を弾圧し、ハレン子にも民青を中心とするスト反斗派と「
闘い込み」亡命授業を行っているのである。彼らは協議会の路線にも反対
している。これは明確に全学への林動隊導入に直ちにつながり、我々
の斗争の暴力的圧殺を意味するに言うまでもない。このような医教授
会の狂気の沙汰に対して、全学的教官の中にも明確な抗議が起りつゝあり、
それは、医教授会退陣要求署名として斗争へと発展しようとしている。我
々は、厚生学院、医共斗、教員会の斗いと連帯し、医教授会の大衆的、政
治的孤立化をはたさねばならない。

7.3協議会改革案の白紙撤回をめざ
し、全学的反撃を展開せよ。

昨日、大学協議会は、いわゆる改革案なるものを提示した。我々はこの
「改革案」なるものと我々の斗いの名に於いて糾弾する。この改革案に
ついて、全般的に述べるならば、まずなによりも大学改革の立場が、
(内ラトフア)